

「家庭の日」運動

1 経 緯

昭和30年代後半から昭和40年代にかけて青少年の非行が急増し、大きな社会問題となった時期に生まれてきた運動です。

(社)青少年育成国民会議が、昭和41年に発足した時、家庭は子どもを生み育てる場として大切に、健全な子どもを育てることができる場にするため、それぞれの家庭で、家庭の大切さを考え、明るく健全な家庭づくりに励むことを全国レベルで提唱し、積極的に取り組んできました。

現在、「家庭の日」運動は、全ての都道府県で取り組まれています。

2 「家庭の日」実施要領

[(公社) 岡山県青少年育成県民会議]

(1) 趣 旨

青少年の健全な育成を図り、その人格形成の基盤である家庭環境の重要性を再認識するため、「家庭の日」を定め、各家庭が青少年を中心とした家族団らんの中で話し合い、協力し合い、楽しみ合うことにより、愛情と信頼に結ばれた明るい家庭づくりを推進するよう広く県民の自覚と努力を促進しようとするものです。

(2) 主 唱

(公社)岡山県青少年育成県民会議
岡山県青少年問題協議会
市町村青少年問題協議会

(3) 実施日

毎月第3日曜日

(4) 実施方法

- ① この日、各家庭は、それぞれ工夫して健康で明るい一家団らんの一日を過ごしましょう。
- ② この日に実施することのできない家庭は、別の日に実施するよう努力しましょう。
- ③ 関係機関・団体等は「家庭の日」が各家庭に徹底するよう広報活動に努めるとともに、指導にあたきましょう。
- ④ 民間企業等においても、それぞれの立場で「家庭の日」の普及に協力しましょう。

(5) 具体的実施例

〔各家庭では〕

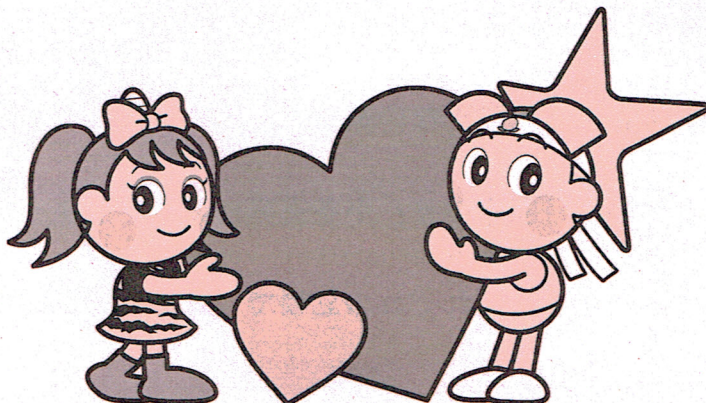
- ① 家族そろって笑顔で話し合しましょう。
(「家庭の日」の過ごし方。学校、職場のできごと、各人の希望や計画、反省等)
- ② 家族そろって夕食を共にしましょう。
(昼間差し支えがあっても、夕食には全員そろって話し合いのうちに楽しい食事を共にする。)
- ③ 家族そろって読書に親しみましょう。
(幼児に絵本を教えたり、童話を読んであげたり、読書後の意見を話し合う。)
- ④ 家族そろって野外に出かけましょう。
(お弁当を持って近くの山や遊園地に出かける。散歩や日光浴を楽しむ。よい映画をみたり動物園等へ出かける。)
- ⑤ 家族みんなで、スポーツ・ゲーム等を楽しみましょう。
(大人も童心にかえって、子どもと一緒に楽しむ。)
- ⑥ 家族と離れている人を励ましましょう。
(離れて暮らしている家族に手紙を出して近況を知らせ励ます。)
- ⑦ 家族全員が協力し合しましょう。
(子どもとともに家族作業を分担し合う。)
- ⑧ この日を契機に毎日が「家庭の日」になるよう努力しましょう。

〔関係機関・団体では〕

- ① 機関紙・ポスター・パンフレット・放送等により、各家庭の啓発に努めましょう。
- ② 座談会、標語、児童作文募集等を行い「家庭の日」の普及に努めましょう。
- ③ 公的な行事は計画しない。「家庭の日」に関するレクリエーション行事などを計画する場合は、家族そろって参加できるようにしましょう。

〔民間企業・団体等では〕

広告等に「家庭の日」の文字を加えるよう協力するとともに、各種業態に応じて、休日の振替、終業時間の繰上、料金の割引等を行いましょう。



©岡山県 「ももっち・うらっち」